

# 農業を学ぶ、

## 農業で生きる

農業とは、米・野菜等の生産・供給を通じて、私たちが生きるのに欠かせない「食」を支える大事な産業です。

また、農業を行い、田畑を管理するということは、洪水の防止などの環境保全にもつながっています。

### 肝付町の農業

肝付町は、広大な平地や温暖な気候・冬季の豊富な日射量で県内随一の施設園芸地帯を形成しています。

しかしながら、肝付町の農家人口は年々減少しており、合併時の平成17年に比べると、現在約2000人余りも減少しています。

全国的に見ても、農業従事者の人口減少や高齢化（平均年齢67歳…2019年時点）などは深刻な問題です。

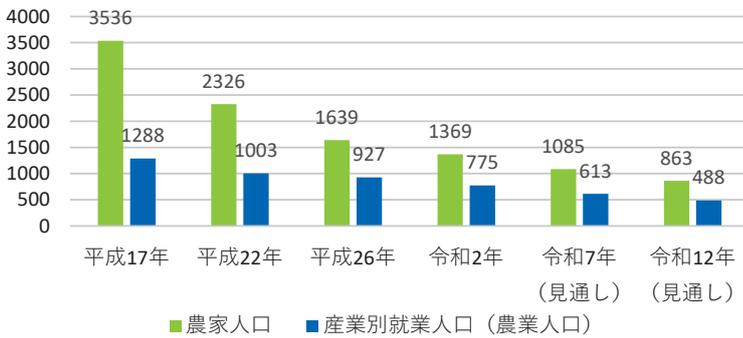
肝付町も例外ではなく、人口減少や農業従事者の高齢化、担い手不足など様々な要因により、今後も農家人口は減少すると予測されています。

### 肝付町の農業を支える人材の育成

農家人口が減少する状態が続いた場合、今後、農業が衰退するばかりではなく、町の経済も大きな打撃を被ることに繋がってきます。

この農業を取り巻く厳しい現状を打開し、農家所得の向上と農業従事者の持続的輩出に貢献することを目的として、一般財団法人肝付町農業振興センターは平成26年10月に設立されました。

肝付町の農業人口の推移



▲肝付町農業振興計画（第3次）をもとに作成



農業振興センターでは、肝付町の農業従事者の増加を図るための就農者育成から農地利用集積の促進や、農産物等の販売に関することまで、幅広く農業に関する事業を行っています。

現在9名の研修生が日々就農に向けて農業を学んでいます。また、これまでに6戸7名が研修を修了し、就農しています。

研修生の就農に対する思いやきっかけは様々です。



「農業を始めた」「家業を継ぎたい」「起業したい」「田舎で暮らしたい」など。農業は、種播き、肥料やり、間引きなど、数ヶ月から一年の間、様々な作業を積み重ねて行きます。

時には、思わぬ天候不良や害虫被害など思ったようにいかないことも多々あります。

一朝一夕でいかないからこそその難しさや達成感を肌で感じながら、研修生はそれぞれの思いをもって農業で生きようと日々農業を学んでいます。

農業振興センターは、農業で生きようと日々努力する研修生のサポートなどを通じて肝付町の農業の将来を支える人材の育成を行っています。



研修生の様子や、農業振興センターの取り組みなどについて、ホームページで見ることがありますので、ぜひご覧ください。

